

事例3

対象

高校 第2学年

キーワード

資産形成・金融商品

教科・科目

家庭基礎 C 持続可能な消費生活・環境

民間銀行と連携した資産形成の模擬体験の事例

概要

自立した消費者として消費経済の仕組みや金融商品、成人に伴う責任を理解することを目的として、課題を設定する際に金融経済教育推進機構（J-FLEC）の、株式を模擬売買するゲームを活用し、収入と支出の管理やリスク管理を踏まえ、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について学んだ。その際、金融商品の選択やリスク管理を身近に考えるために、民間銀行が提供するシミュレーションゲームを活用し、株式投資のリスクとリターン、長期的な資産形成の視点を養った。

外部機関の教材活用

金融機関が作成した学校向け教材を活用し、株式の仕組みや金融商品の種類を学びながら、ゲームを通して変動する株式のリスクについて考える活動を行うことで、自立した消費者として、実社会における情報を活用しながら、リスク管理を踏まえた生涯を見通した生活における経済の管理や計画を学ぶ取組につながる。外部教材を活用するにあたり、授業準備として、外部機関との打ち合わせを通して、当日の流れ、準備するものなどを話し合い、事前配布する資料を準備した。



成果・課題

- 事前の授業で家計のシミュレーションを実施した際に、投資や貯蓄等の資産形成への興味・関心を高める取組を行ったことで、生涯を見通した経済計画の重要性に対する理解を自分事としてとらえる取組となった。
- 消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解し行動するためには、公共（消費者の契約）等と教科間連携を行う方が、より学習内容を深める取組になったのではないかと感じており、今後は教科間連携についても考えていきたい。



実践者の声

- ゲーム中で起こったイベントに関するニュースや新聞記事を積極的に探す姿が見られた。また、株価の上下がなぜ起こるのかという切り口で、社会の消費行動に関する情報を収集し、自分なりに分析するきっかけとなっていた。
- 生徒たちがより現実的な生涯を見通した生活における経済の管理や計画が考えられるよう、事前に家計管理や契約・消費者トラブルについての基礎知識を学んだ上で、今回の授業において金融商品や資産運用を学ぶ流れで単元の計画を立てた。

動画で手軽に！授業の様子をチェック！

授業の様子を約9分の動画にまとめました。
QRコードもしくは下記URLから動画を読み込んでください。
<https://youtu.be/pw3jibA14TU>



単元計画

目標

翌年に成年年齢の18歳を迎える高校2年生が消費経済の仕組みや金融商品、成人に伴う契約上の責任などを理解することを目指す。具体的には、単元を通して、リスク管理の考え方を理解し、資産形成の視点にも触れながら、生涯を通じた生活における経済の管理や計画が立てられるようになることを目指す。

単元計画 ※ピックアップ授業（詳細は次項参照）

時間数 (時)	学習課題・内容（児童生徒の様子等）
1	題材・学習課題
	○単元を通して考える問いの提示「自立した成人」としての消費生活を考える ○株式学習ゲーム（J-FLEC提供）
	活動内容 （活動内容）株式学習ゲームを活用し、株式市場の仕組みやリスクを学んだ。 （生徒の様子）チームにおいて、資産の増やし方を考える中で、実社会の企業の業績や市場の動向を主体的に調べる姿勢が見られた。
2～4	題材・学習課題
	○成人になってできること ○契約について ○消費者トラブル ○キャッシュレス決済
	活動内容 （活動内容）社会人として契約や様々な消費者トラブル、また、そういった事案の際に自立した大人としての判断ができるように知識を身に付けた。クレジットカードやキャッシュレス決済の種類や使い方、注意点について学習した。 （生徒の様子）教材を活用することで、実際の消費者トラブルの事例に触れながら、自分ごととして学ぶことができ、消費者被害の未然防止の重要性について理解することができた。また、キャッシュレス決済における詐欺やリスクについての知識も深めることができた。
5・6	題材・学習課題
	○家計のシミュレーション ○消費行動と意思決定
	活動内容 （活動内容）収入について、給与明細を見て可処分所得や控除について学び、1か月のシミュレーションから消費する金額を考察した。消費者の責任として消費行動における意思決定の重要性を学習した。 （生徒の様子）実際の給与明細を基に収入・支出のバランスを考えることで、無計画な支出がどのような影響を及ぼすのかを実感した。資産形成の大切さを理解し、投資や貯蓄について計画を立てて実行しようと思わせることがつながった。
7	題材・学習課題
	○金融商品 ○将来に備えたお金の話
	活動内容 （活動内容）定期預金・投資信託・株式などの異なる金融商品の特徴を比較し、リスクとリターンのバランスを考慮した資産運用の重要性を理解するゲームに取り組んだ。 （生徒の様子）今までの学習内容をもとに実践的なゲームに取り組んだことで、株式の仕組みや金融商品の種類を踏まえて、金融商品の選択が長期的な資産形成にどのように影響するのかを実感することができた。
8・9	題材・学習課題
	○金融リテラシー検定 ○単元の振り返り
	活動内容 （活動内容）暮らしにかかるお金全体の知識について、振り返りの実施と金融リテラシー検定を受検した。 （生徒の様子）検定の受検を通じて、これまでの学習成果（金融知識や意思決定における意識の定着度等）を客観的に振り返ることができた。また、自身の理解度を可視化することで、今後改善すべき点が明確になり、日常生活での実践に向けて、今後の資産管理や消費行動に関する個別の目標を設定することにつながった。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 - 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想・実践し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

本時の授業展開

本時の目標

- 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。自立した消費者として生活情報を活用しながら、適切な意思決定に基づいて行動し、課題を設定・解決しながら、その実践を振り返り改善する力を身に付ける。

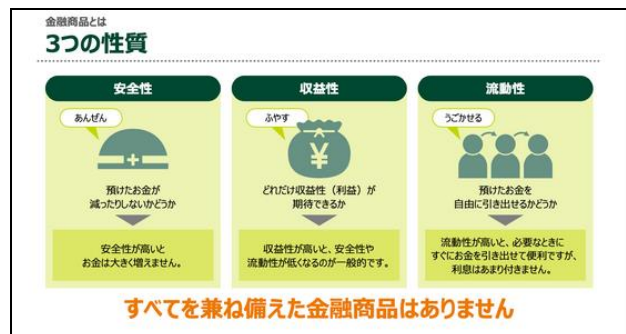
本時の展開

時間(分)	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	○資産運用の役割を知る。 ○金融商品の種類を知る。 ・株式や金融商品の種類について説明を聞き、今日の学習の目的を明確にする。	・事前の授業で取り組んだ家計シミュレーションについて簡単に振り返る。 ・資産運用を単純に推奨するのではなく、あくまで現実的な選択肢の一つとして考えられるということを説明する。
展開 (30)	○資産形成ゲームを体験する。 ・市場ニュース等から不況や好景気などの架空イベントが発生する中での投資判断を行う。 ○投資判断を行う際の要因についてを学ぶ。	・投資とギャンブルの違いについて丁寧に説明する。
まとめ (10)	○まとめ ・グループごとに運用結果を振り返り、何が原因で利益や損失が出たのかをクラス全体に共有する。	・日常生活での消費における意思決定には、社会情勢等の情報（物価の上昇や円安による経済動向など）が活用できることを確認する。

使用した教材（提供：J-FLEC・民間銀行）



▲配布されたガイドブックで、漫画を読み進めながら株式について学習することができた



▲金融商品の性質を知り、長期的な資産形成の視点をつかむことができた